



三つのペン

羽ばたけ 未来を
生きぬく田上っ子
～目標に向かって考え
高め合う子～

家庭数配付・地域回覧

TEL 0256-57-2017

FAX 0256-57-4641

Eメール:hanyuda-es@edu-niigata.ed.jp

HP: <http://www.hanyudaes.tagami.ed.jp/>



【学校 HP】

子どもが壁にぶつかったとき

校長 浅野 哲司

子どもたちは日々、多くのことに挑戦しています。しかし、どれだけ努力しても結果が出ないとき、心が折れそうになることもあります。たとえば運動会の徒競走で、どうしても勝てない相手がいる。何度挑戦しても2位。そんな壁にぶつかったとき、大人はどのように支援できるでしょうか。

以前勤めた学校で、子どもが壁にぶつかった時の対応の仕方について保護者のみなさんと話し合ったことがあります。その時、みなさんから出た意見は以下の通りです。

子どもが「できない!」「やりたくない!」と言ってきたとき

- ① 聞かないふりをする。
- ② 「嫌なことはやらなくていいよ」と言い、無理にはやらせない。
- ③ 言い訳は聞かず、無理にでもやらせる。
- ④ 「がんばればできるよ」と言って励まし、取り組ませる。
- ⑤ 「できたらご褒美をあげるよ」と言って取り組ませる。
- ⑥ ちがう目標を与え、その子なりの取組を褒める。



①や②、③の対応を続けると、子どもは大人になってもできないことを避けるようになります。

④は大人の励ましを負担に感じ、逆に取り組まなくなってしまうことがあります。⑤は、できない状態が続くと「別にご褒美はいらない」と思うようになります。私のこれまでの経験では、⑥の対応がよいのかなと思っています。

⑥の意見を出してくれたお母さんは、以下のような体験談も話してくれました。

私の娘は「100m走ではA子さんには絶対に勝てない。運動会ではいつもA子さんと同じ組になってしまう。だから私はA子さんと走りたくない。」と話していました。だから私はこう言ったんです。「あなたは瞬発力があるから、50mまでなら勝てると思うよ。お母さんは50m走だと思って見ているね」と。そうしたら子どもの目つきが変わったのがよく分かりました。

実際にこの言葉を聞いた子どもは、それから一生懸命にクラウチングスタートの練習をしました。家に帰った後もグラウンドに来て練習をしていました。手の付き方や体重のかけ方等を修正し、体育の時間は私にアドバイスを求めてくるようになりました。そして運動会当日、その子はスタートから80mまではA子さんを見事にリードすることができたのです。最終的には2位になりましたが、ゴールした後の笑顔とガッツポーズがとても印象的でした。

長い人生の中で、がんばってもなかなか越えるできない壁にぶつかることがあります。そんな時に、周囲から視点を変えるアドバイスを受けてきた子どもは、自ら取り組み方を修正する力を身に付けていきます。一人ひとりの成長の歩みに寄り添いながら、私たち大人も、励まし方・支え方を見つめ直していきたいと思っています。



スローガン

ずっと笑顔で！

～仲間と共に笑顔でめざせ優笑！～



いよいよ5月24日（土）に今年度の運動会が開催されます。子どもたちは、この日を目指して、競技に応援にと全力で練習に取り組んできました。

今年のスローガンに入っている「優笑」という言葉に子どもたちの「みんなの笑顔で運動会を成功させたい」という気持ちが感じられます。「優勝」は、赤組か白組のどちらかしか手に入られません。が、「優笑」はみんなが感じられるものです。今年の運動会は、たくさんの笑顔が輝く一日になりそうです。

当日は、保護者の皆様、地域の皆様よりの暖かいご声援をお願いいたします。



ありがとうございました！ 春のPTA全体作業

10日（土）、PTA設備美化委員会主催による「春のPTA全体作業」が行われました。どじょうこ広場、わんぱく山にて、清掃、枯れ枝拾い、道の整備、校内の各教室のエアコン、扇風機の清掃を行いました。

約90名の参加者の皆様のご協力により、子どもたちの学習と遊びによりよい環境となりました。早朝にもかかわらずご参加いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。

